續藩翰譜 十二止

家傳

加々爪　那須　喜多見　西郷　本多　屋代　金森
柴山　佐久間　坂本　水谷　伊丹　植村

和書門 類 三四六九九號 一一六函 八架 二冊

内閣文庫 和書 類 三四六九九號 二一冊 一五五函 一〇架

内閣文庫
番號 和 34699
冊數 21（21）
函號 155 65

第五

藩翰譜續編巻之十二附録

加々爪

来山

那須

佐久間

喜多見

植村

金森

喜連川

松前

坂木
西郷
水谷
本多
伊丹
屋代

加々爪

藤原直澄

直輔 隼人
信濃守従五位下
萬治三年十月廿四日卒
二十二歳 作五月廿二日

女子二人
一人 早世
実某女
近藤登助季用妻

直清　図書
実石川播摩守総長二男
土佐守従五位下
寛文二年十二月十七日叙任
天和元年二月九日配流
伊勢国
貞享二年十月四日死四十三歳
法名霊源院独峯玄耀

藩翰譜続編巻之十二附録

加々爪

土佐守忠清ハ甲斐守直澄か子　實ハ石川播磨守総長か二
男なり　寛文二年の冬叙爵して　延宝七年十二月父直澄の家
をつく　[illegible]　忠清か述作の所領の百姓千歳
[illegible]　百姓と[illegible]ひ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

故に世わたる家業もあらて亭の判断をなせしかと、寛保の
比よりあめかしたるにかゝるに、[illegible]大和
元[illegible]三月九日[illegible]
[illegible]遠ざかれと[illegible]
あはれなる人は其[illegible]

来山

[illegible]
[illegible]明暦二年十二月廿六日[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]十二月[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]十月廿三日[illegible]二人の[illegible]

慶長[illegible]台徳院[illegible]又一尹ニ分知[illegible]二人[illegible]
[illegible]元和六年[illegible]月廿[illegible]卒

桑山

藤原一貞

一尹 三之助
美作守従五位下
延宝五年閏十二月廿八日叙任
天和二年五月十六日所領没収
同三年五月十一日死
法名一政院峯月日柄

一慶 初 玄道 百助 三郎左衛門 弐之助
甲斐守従五位下

宝永四年四月廿八日叙任
享保十五年八月四日卒
六十八歳
今桑山三郎左エ門公穀祖

一英　岩柗　左内
元禄六年十月廿六日卒
二十五歳
今桑山左内一新祖

一規　源次郎
一英養子

亮志　初名 詮凡
真空院大僧正
宝永三年八月十六日寂

亮観
宝巌院僧正
元文五年五月八日寂

女子三人
河野源右エ門通矩妻
岡部内膳正行隆養女
設楽善左エ門真高妻

那須

藤原資景

資重 与一
美濃守従五位下
寛永九年十二月叙任
同十九年七月廿五日卒
三十四歳
法名自鏡院天心玄性

女子
喜連川右兵衛督尊信妻

正弥 仙福
増山弾正少弼正利養子

資寛 福原図書

資弥　初 高春　資祇
初称増山 千福 友之助
実青木三大夫郎利長二男
右衛門尉 作従五位下
慶安四年八月十六日叙任
万(?)応(?)元年二月十六日改
遠江守
貞享四年八月廿六日卒
五十戈
法名連臺院先國清心

資徳　主殿　与一
実津軽越中守信政二男
貞享四年四月十四日所領
没收
元禄十四年十二月十五日賜
采邑
宝永五年六月廿五日卒
三十七戈
法名清光院月峯常心

資徳子
資隣　豊丸　与一

資虎　豊太郎　与一

資明　与一

那須

遠江守藤原資弥 初高春 資祇 右京大夫資家か子実ハ青木三太郎利長か二男也 資弥 増山 [illegible] 利長か子資弥 [illegible] 増山 [illegible]
[illegible] 時 正保四年十二月廿八日叙爵 [illegible] 慶安 [illegible]
[illegible] 慶安四年八月 秋叙爵 [illegible]
[illegible] 子なかりけれハ那須の家 [illegible] 資
重之 資家 [illegible] 藤 [illegible] 元年の十月 [illegible] 資徳を
[illegible] 資家 [illegible] 世の [illegible]
[illegible] 資家 [illegible] 時 [illegible] 資徳 [illegible]

と成て何事も見分して萬事しつかと謝罪ありて寛文二也
年十二月より此を始しによりて[illegible]（[illegible]）天和元
年十二月すみて又此を始て遂に飛騨の高山の城をわたし（二十三日）[illegible]
貞享四年六月卒ス（六十三とも云十二歳とも云）嵯峨の[illegible]より[illegible]
とハ此の[illegible]世[illegible]高山に[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

て十二月廿日高山の城を[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
一　元禄十二年[illegible]

佐久間

平盛次

盛政
理助 玄蕃允
天正十一年九月十二日為豊臣太閤所殺

安政
初称保田久蔵
久太郎 久左衛門尉
備前守従五位下
寛永四年四月十五日卒
七十二歳
孫三五郎安次早世家絶

勝政 三左衛門尉
柴田勝家養子
於近江国志津嶽戦死
二十七歳

勝之 初称佐々源六 源六郎
大膳亮従五位下
慶長十五年叙任
寛永十一年十二月七日卒
六十七歳
法名三圓恭山

勝年 右兵衛
信濃守従五位下
元和二年叙任後改因幡守
寛永七年九月廿八日卒四十一歳
法名玄鉄閑叟

勝友 蔵人
寛永十九年七月一日卒
二十七歳
法名正学性大

勝種 源四郎
天和二年八月廿一日配流
伊豆大島

勝盛 源六郎
正保三年九月廿九日卒
廿二歳無嗣家絶

勝豊 権之助
備前守従五位下
寛文九年十二月廿八日叙任
同十年二月改安房守
貞享二年八月廿八日卒
五十一歳
法名佛性院徳岩浄乾

勝茲 作親 萬作 織部
実秋月佐渡守種信二男
元禄元年五月十八日配流
陸奥国二本松

女子九人
秋月長門守種寿室
立花主膳正種次室
山口備前守章惟妻
窪田豊前守善政妻
柴田三左衛門勝重妻
大島左大夫光盛妻
能勢次左衛門頼重妻
渡辺九郎兵衛某妻
中川隼人某妻

勝興 長助
寛文四年五月十五日卒
二十九歳
今佐久間十太郎勝利祖

女子二人
勝茲室

同四年正月一日卒廿二歳

佐久間

大膳亮平勝之ハ[illegible]

[illegible]

勝之寛永[illegible]十二月[illegible]

[illegible]勝年子

[illegible]

重頼[illegible]二字[illegible]寛元元年十二月従五位下[illegible]
[illegible]貞享[illegible]八月[illegible]
[illegible]
[illegible]十二月十二日[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

喜多見　初木田見　又北見

平重長　畠山三郎　江戸太郎

重盛　江戸太郎

重方　江戸四郎次郎

重持　新太郎

武重　木田見小次郎

泰重　藤太郎

長門　遠江守

高重　藤太郎

康重 三郎
右京亮 駿河守

重康 三郎

重廣
右京亮 駿河守

某 又太郎
立川合戦ニ死

定重 孫六
右京亮

信重 又五郎

廣重 小三郎
駿河守

門重 孫八郎
右京大夫

常先 称江戸

某 彦太郎
於河越戦死二十六才

頼忠 刑部
法名與楽
元和五年八月卒九十余才

朝忠
摂津守 慶長七年八月卒五十一才 法名法心

勝忠 五郎左衛門
若狭守従五位下
寛永三年八月廿九日叙任
同四年十二月廿八日卒六十才
法名宗玲

正忠
主水正従五位下
元和六年七月八日卒
三十一才

重恒 半三郎 五郎左衛門
寛文十二年五月十四日叙任
号宗出
延宝七年八月廿日卒

重政 彦五郎 五郎左衛門
実石谷長門守武清男
若狭守従五位下
天和元年四月十九日叙任
元禄二年二月五日配流
伊勢国
同六年七月廿八日死

重勝 久大夫

重長
年人

女子
伊丹大隅守隆政妻

重治
茂兵衛

女子二人
石谷長門守武清妻
浅野伊豫守直国妻

喜多見

若狭守平重政ハ右京亮勝忠か孫也[illegible]先祖江戸太郎重
長頼朝卿に志を通して軍功あり重長か後胤江戸[illegible]
刑部少輔[illegible]喜多見の[illegible]中務の[illegible]
小田原北條氏政に属し[illegible]村[illegible]
て[illegible]
[illegible]関東[illegible]
て[illegible]
寛文○元和六年[illegible]
[illegible]
摂河[illegible]
[illegible]

へと也りしまみたへ流る九年此西郷よりのりて舟にしそ坂の津ゟ
立帰りしもの船来の年よりの所々渡しを又寛永六年の四月所々の船
出帆する事を禁じ寛永四年十一月廿五日坂の津より
渡海の者は小舟…
てこの年八月に…年へ長崎にて永に寛永十二年五月…
寛文…明暦…の寛永十七年…
并の…此年も…年…
御…の…寛文十年四月…
…延宝二年七月廿日…
…正保二年…月廿日…
…寛文…の…
…

天和
三年…元禄四年九月廿三日…
元年…十二月廿七日
…元年四月十日…
…貞享三年四月十六日又…
…天和の…
…元禄二年二月六日…
…元禄六年七月十八日…

坂本

源貞重 宮内少輔

貞次 兵部丞 豊前守
文禄元年十月十八日卒七十六歳 法名頌鉄

貞吉 宮内
慶長十一年正月廿日卒 五十一歳 法名道春

重安 久五郎 小左衛門
正徳元年六月七日卒五十七歳 法名日住

貞俊 権十郎
寛延二年十一月廿日卒無嗣家絶

重治 久五郎 小右衛門 初重秀
実小林又右衛門正親二男

成方 久五郎 小左衛門

右衛門佐従五位下
天和元年四月十八日叙任
後改内記
貞享四年五月十四日有罪籠居
元禄六年七月廿七日死六十四歳
法名日意

貞政　百助
今坂本友三郎貞時祖

治之　久之丞

直規　久太夫　斉宮

坂本

内記源重治ハ小出右衛門主安殿の家より出小林家の庶流
五郎より出て世々の譜に梅本新左衛門祖先より
代々判形本多左衛門家より男ノ作左衛門より流小
瀬六郎兵衛家ノ孫甲斐守ノ臣ノ人坂本家門より出坂本
先ニ在ル新兵衛貞まで三世元先祖代々ノ父子今境
東国の侍勘石出雲殿本住貞治ハ先祖より浪人
後ニ小田原中の城を守る十年徳川家ニ召しかと
北条氏田原中の城ニ出て小田原中ノ戌其より関東ニ往

り放せて相模国に流され其後御赦免ありて [illegible]
野守忠兼か娘の代りに貞継か子を同貞秀と
東安芸守治 正保二年 二月十六日 [illegible] 遺跡を継
同年十二月十五日 [illegible] 寛文元年十二月廿六日 [illegible]
六月十六日 出羽守 [illegible] 惣領 [illegible]
継 [illegible] 七月廿五日 家継 [illegible]
[illegible]
[illegible] 遺跡 [illegible]
[illegible] 天和元年 十二月十五日 [illegible]
[illegible] 同年 五月十六日 [illegible]

元禄四年六月廿八日 [illegible] 京都 [illegible]
命せて [illegible] 十二月十二日 [illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible] 貞享 [illegible]
[illegible]
元禄二年六月 [illegible]
[illegible]

源正貞

西郷

重貞　主殿
延宝六年七月十四日卒

女子二人
北条安房守氏平妻離別
嫁井上文恭院某離別
高力刑部通家妻

行貞　釆女
寛文九年六月七日卒

女子
土岐伊豫守頼殷室

定貞 孫六郎
若狭守従五位下
万治三年十一月廿三日叙任
元禄三年十二月廿五日致仕
同五年五月廿九日蟄居下野
国上田号退休
同十年四月廿五日卒八十四歳
法名通明院日実退休

氏貞 熊之助
天和元年四月二日卒

茂貞 万吉
実八郎左衛門用貞二男
後帰

寿貞 万之丞 靱負
初重貞 治貞
実大村因幡守純長二男
越中守従五位下
元禄二年十二月七日叙任
同六年十二月九日家督
同十年改東市正
元文三年五月三日致仕
剃髪号同夢
寛永元年十月十九日卒六十
九歳
法名縁生院同夢日諦
今筑前守貞総家

女子
寿貞妻

末貞 主膳
寛永十七年七月十日卒

用貞 主馬助 八郎左衛門
今西郷市左衛門貞寿祖

女子二人
共早世

西郷

美濃守源延貞ハ故の美濃守為長か嫡子也 初弾正少弼

ニ任ス寛永四年十二月叙爵して元のことく廿九日美濃ハ

弾正少弼ハ遠江にあらためて美濃守ニ任ス 当所ニ加増 美濃ニ弐万石内一万人

治寛年十二月十八日飯野にて元禄にて〇十二月十日 飯野ニ住ス

ありけれハ大坂御陣の時東照宮に從ふて飯野を

遠江ハ守にして其家臣の者とて出陣もありしかハ其後

飯野に残しおきける延貞ハ浪人の身となりしに

なりけるにかへりみて後世のならひなりと仰られ

一かれも寿算つもりて[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]年[illegible]月[illegible]六年[illegible]寿算[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]同八年[illegible]

[illegible]寛保元年

[illegible]十月[illegible]六十[illegible]

水谷

藤原勝隆

勝宗 弥大三郎
左京亮 従五位下
寛永十八年十二月晦日叙任
元禄二年閏正月十四日致仕
同年二月十九日卒 六十七歳
法名栄與院建峯全勇

女子
仙石越前守政俊室

勝美 大千代 初勝明 勝貫
出羽守 従五位下
延宝七年十二月廿六日叙任
元禄六年十月請以一族弥七郎勝晴為嗣 六日卒
三十一歳 十二月廿七日勝晴
亦卒 除采邑 猶使弟勝時
奉祀
法名隆昌寺大山全長

勝晴 弥七郎
元禄六年十二月廿七日卒
十三歳
法名覚徳院朝華日種

女子
永井監物白弘妻

勝能　弥四郎　新左衛門
延宝八年八月卒五十

勝時　虎之助　主水
初家人三上外記某所養
元禄六年十二月廿日継勝美
之後
正徳三年四月廿三日叙任
同四年八月十日卒四十九戈
法名光道院無方全閑
今水谷左京亮勝久家

女子
勝家之人
平山傳右衛門常時妻

勝阜　弥之助
信濃守従五位下

五戈
今水谷信濃守勝冨祖

元禄十二年十二月一日叙任
享保五年十二月七日致仕
号土斎
同十八年十一月廿日卒七十
四戈

女子二人
一柳半弥直照妻
水野越中守忠久妻

女子
諏訪伊織頼安妻

勝比　頼母　弥之助
信濃守従五位下

女子
宮原刑部大輔氏義室

勝英　半助　左門　半左衛門
主水勝時養子

正庸　近江守
本多外記正芳養子

頼勝　伊左衛門
妻木伊左衛門頼常養子

勝中　半蔵
水谷小左衛門勝睦養子

女子 早世

某 弟之丞 早世

女子四人
妻木彦右衛門頼直妻
頼直後妻
二人早世

水谷

左京亮家系勝宗從弟勝隆嫡の子ニて寛永十八年[illegible]
十二月御前ニ寛文四年七月より遣候て拝領[illegible] 伊予松山の城ニ参候[illegible]
の[illegible]勝隆病身ニ付家督を[illegible]延宝元年同十二
月[illegible]秋[illegible]候 秋[illegible] 元禄十年同[illegible]月十四
[illegible]二月十九日
[illegible]寛文十三年[illegible]
[illegible]延宝元年十二月[illegible]
[illegible]元禄六年[illegible]

[illegible]

本多

藤原重昭

重益　初成宗　成邦　成仲　成恭　作左エ門

飛騨守従五位下

延宝五年閏十二月廿六日叙任

元禄八年三月廿二日配流

伊予国今治

宝永六年八月廿日赦

享保十三年十月九日致仕号

宣外

同十八年二月廿五日卒七十

一丈
法名覚誉寂照
今作左門成旨家

女子
五島佐渡守成暘室

重信
重益養子

女子
許嫁甘露寺安凡離別
嫁藪波三位宗尚卿

本多

飛騨守康家 [illegible]が嫡男 母は[illegible]女
なり 寛文十二年十二月朔日[illegible] 延宝
四年二月十九日遺跡を継 近江国栗太郡[illegible]のうち[illegible] 時に[illegible]日
十二月叙爵 元禄八年六月廿日[illegible]
あつかりし[illegible]
うけ[illegible]の地[illegible] 松平[illegible]
評定所にて[illegible]
宝永五年八月[illegible]
[illegible]享保十六年十月廿九日[illegible]十八年二月廿四日

伊丹

源勝長

- **勝政** 五左エ門
  - 大隅守従五位下
  - 寛政二年十二月廿七日叙任
  - 元禄四年七月廿五日卒七十七歳
  - 法名凉安院回誉心月
  - **利忠** 兵左エ門
    - 丸毛兵左エ門利政養子
  - **女子**
    - 藤掛信濃守永政妻
- **勝久** 大蔵
  - 実播磨守勝長二男
  - 延宝四年十一月廿四日卒
  - **勝守** 竹之助
    - 元禄十一年九月十五日自殺
    - 二十六歳家絶
    - 法名覚雲院本誉一心

勝元　理左エ門　図書
初勝重
伊丹喜八郎勝道祖

純長　権吉
大村丹後守純信養子

女子二人
皆川又七郎秀隆妻　離別
嫁川口茂右エ門宗憲
柴田和泉守康則妻

勝久　大蔵

女子
大村丹後守純信室

伊丹

大隅守源勝政ハ播磨守勝長か嫡男なり　寛永十一年甲戌の十二月
初て御目見えし寛文二年六月廿七日父か遺領をつく　[illegible]
十二月廿八日叙爵し元禄四年七月十日に五十八歳にて卒す
播磨守勝守ニ家督を継　先是ハ元禄元年四月よりめされて[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

屋代

源正興

忠位　五右エ門　甚三郎

初忠至

実朝倉千七郎一至二男

越中守従五位下

寛文三年十二月廿八日叙任

正徳二年七月廿日除矦籍

同三年十一月廿九日致仕

同四年二月廿日卒六十八歳

法名瑞光院明暁一圓

女子 実越中守忠正女
忠位室

女子 朝倉孫右衛門某妻離別

某 甚三郎

女子 内藤式部少輔正友室

忠和 半助 左衛門
正徳二年二月十四日卒

女子 柴田七九郎康貞妻

某 室賀半次郎 早世

邦守 室賀三五郎
多賀又四郎某養子後帰

某 室賀兵助

女子三人
山名因幡守豊就妻
秋山十右衛門正徳妻
許嫁藤堂帯刀某卒

正勝

室賀音之助

主計

屋代

越中守源忠位 [illegible] は甚三郎忠正か嫡子なり延宝

七年四月朔日 [illegible] 寛文六年六月廿五日父か遺跡を継

[illegible] 十二月廿八日 [illegible] 元禄四年二月廿六日

人 [illegible] 同三年八月廿六日 [illegible]

年四月 [illegible] 同十二年七月廿五日 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

往又川井にてはかくは何にか出けるかいひもし出けれは物かくる
多く居る人出ける事も川井よりけむれは竟村の長といひ尤
判よりおもむき此度はかくしまにも有るうへ扇へ出て付
筆写をしけるに川井の花も来りしかは大に悦びて和
以来に於て改めに乃も此歌を示すにかかる秘蔵して
ろくちへは川井が筆跡をはさへも下をすゝみ出しに伝
其を見ては此後に出る人よりも筆は外に解筆せしとは出て増え
出づるに家の老ともは一家の家人と出ては物いひてと出し
筆りける云事を云ひ尤彦花ここも見なけれは清ひや事御へ
勝負出来しも新しく廃来にも猿と偏にここ清
過見候

中ちうち直延元年の路のほとりにていはき
仍年六月六日写すかりしに筆りけり

植村

右衛門佐源家政ハ常陸介家次か二男也 （御母ハ[illegible]） 乃ち

元和元年十二月御奉公し寛文六年十月九日近習となる

上様御側にて[illegible]　其後寛永二年十二月[illegible]

[illegible]御近習の代に[illegible]

[illegible]時[illegible]

[illegible]

八年八月廿五日御[illegible]九年十二

月[illegible]十年[illegible]年[illegible]

[illegible]

元和六年十月十二日[illegible]九年

十月十二日六十七歳にて[illegible]

二月廿日卯[illegible]常[illegible]二月[illegible]

此所[illegible]寛永二年二月十五日[illegible]

[illegible]御[illegible]八年十月[illegible]大番頭[illegible]

十六年大坂の定番[illegible]十九年[illegible]十月[illegible]

かくて[illegible]其上[illegible]家継十六年十二月御[illegible]

して長[illegible]又[illegible]十二月[illegible]

[illegible]寛保六年二月大坂城の[illegible]

[illegible]延宝四年[illegible]

[illegible]十月十二日[illegible]植村の[illegible]

[illegible]植村出羽守[illegible]

許されし狩野家の法印寿朝〔実ハ洞春が弟子也〕あらす
廣く末家のうりて古画をうつし棟梁の家にいたりて文化の
[illegible]
狩野の人[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
め狩野の人々[illegible]狩野家の[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]狩野[illegible]
[illegible]
[illegible]宝暦七年七月吉日[illegible]

金森

出雲守頼時　初頼寛　飛騨守頼業か子なり　寛文十一年
二月廿日父遺跡を継（時に八歳）　延宝四年四月十六日叙
爵す　天和元年十二月四日従五位下に叙し　元禄
二年四月十三日奏者の事をつとめ　元禄四年十二月
朔日同く御側衆となる　五年七月廿八日出羽
国上山に移され　六年閏五月廿八日　元禄十年六月十
日美濃国郡上の城を賜ふ　享保六年六月廿八日
元文元年五月廿二日卒す　寛文元年　六十八

兵部少輔頼錦　父の家を継　享保廿一年九月
にはじめて[illegible]　十二月十六日従五位下兵部少輔に叙し
[illegible]　元文元年七月十六日遺跡を継　延享四年六月
奏者番となり　[illegible]　其後十年寛保
の事なり　[illegible]　国中に[illegible]　[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一てたなるに（以下）に□もて給わ□□て候□□

寛永□□亡□□跡□□きの□□よりて□□

にかすり□□申し□にて□なし□□□□

弥も□出□の□□□□□□□□□□

其□□□□□□□□太服豊□利権□□

仕□□□□□□　同十二年□十七　□□□年□

喜連川　清和源氏　五千石

正三位源尊氏征夷大将軍尊氏次男関東鎌倉公方従三位左兵衛督基氏

曽孫左兵衛督古河公方初代成氏幼名梅千代王丸従五位下左馬頭

孫義氏従五位下左兵衛督□□将軍義輝の一字を給

義氏同六年□□従五位下□□□□天正十年十二月

其□古河城□□四十二歳□□□□氏姫梅千代王丸

無其後義氏□□卒□□氏□□□□□□□□

給□□□□関白の命□□□□□の□□□

其子□□□□□□□□□□□□□□□□四十八年

仕り取次の節を以て御免を蒙り御目見仕候由 寺沢兵庫 相附候て名跡
元和二年上総佐倉より出羽へ相附 朝鮮 同年十二月に 安藤右衛門
相勤候て年に候様子仰付らるゝ 数代二男之九段衛門
数代之上の事に候 寛永二年五月廿八日御暇被下候
て参り慶長二年同所にて 芳賀郡の内にて扶持被下
井村にて年々 寛永十七年二月十六日 義道 同年に以
年々寛永十年九月芳賀郡に... 嫡子梅田内蔵之丞 實父
寛永十年 ... 年々 ... 義親の
嫡子 寛文 切米 親王九 同七年 ...
大番 ... 延宝元年 ...

大島次郎兵衛 ... 東谷 ... 義道 ... 寺 義道 ... 野州
芳賀郡 ... 内 ... 今の月 ... 義道
月廿日 ... 年 ... 嫡子梅田内蔵之丞 ... 義道
... 延宝元年 ...
年 ... 同四年九月 ...
寛文十一年 ... 七郎 ... 義親
... 延宝元年 ...
... 寛永 ...
... 義親 ...
... 元禄 ...
東 ...
...

寛永十七年十一月廿一日始而 御目見仕 六月 御書院番被仰付
兵衛 寛文十六年[illegible]被仰付 延宝八年 御小姓組
[illegible]御番[illegible]九年[illegible]
寛文十年十月廿一日於[illegible]御加増[illegible]
[illegible]同年[illegible]月[illegible]
[illegible]天和二年[illegible]被仰付[illegible]
[illegible]
[illegible]御[illegible]
[illegible]
[illegible]寛文八年[illegible]

元文三年[illegible]中奥[illegible]
[illegible]
[illegible]御[illegible]上[illegible]
[illegible]
[illegible]享保六年[illegible]
[illegible]六年[illegible]月[illegible]
[illegible]享保六年[illegible]
[illegible]七月[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]守[illegible]

享保九年十二月[illegible]

[illegible]七年十二月[illegible]

[illegible]

年十二月[illegible]同六年十二月[illegible]

十二年十二月[illegible]

[illegible]

[illegible]同十二年二月廿六日[illegible]　明和六年[illegible]

[illegible]

[illegible]明和[illegible]十二月[illegible]

寛政元年[illegible]

[illegible]

寛政元年十二月十日家督[illegible]

[illegible]

續撰系図

[illegible]

一元来御目見以上之節も伯爵[illegible]
御座候ハ[illegible]
ニ長崎[illegible]
序勤[illegible]
半[illegible]

松前

清和源氏

無高　松前蝦夷図

新羅三郎義光十六代若狭守[illegible]嫡男信広　松前[illegible]
五代伊豆守慶広[illegible]
文禄二年正月[illegible]
慶長[illegible]年[illegible]同四年十一月[illegible]
の時[illegible]松前[illegible]
寛永[illegible]年二月[illegible]
[illegible]
正月[illegible]百人扶持[illegible]同九年[illegible]月[illegible]

同前年十一月六日出羽国先祖一職所領被下之十二月十六
日御暇之節於御前御茶被下 右京亮被召出同
大坂御陣之節 御供仕 同年九月御使番被仰付 一万石
御加増 同年十月廿日 御暇被下 慶長七年廿九歳ニ而 家督十二月
十四日 従五位下 侍従被仰付 同十六年 六月十八日 従四位
下侍従 于時 六十歳 同二年 十二月十六日 従四位下 少将
右衛門 御供仕 御茶湯之節 御列 御供 出羽守 被仰付
後従五位下 出羽守 従四位下 侍従 海 拝領 御鷹之 同年九月之
同十一年 慶長 御供 被下之 同十九年六月廿八日 初名 任従五位下 五月廿五日 右京亮 従五位下 九月 御暇 越後
人参 頂戴 新規 御加増 一万石 同年八月十日 出羽守 仰付

一 大坂御陣之節 御供 同十年 九月 於 二条 御城 御鷹 拝領
此時 大坂 御出陣之節 御供 同年 十二月 御暇 従五位下 侍従
同十 従四位下 寛永六年 十月十二日 御暇 所 仰付
新田 被下 御加増 一万石 従四位下 侍従 御名代 仰付
之 慶長 元年 之 御暇 被仰 同六年 十二月廿六日
御頂戴 御加増 御暇 被下 同 御名代 被仰付 右京亮 大
御鷹 拝領 同年 御供 御名代 従五位下 右京亮 之
同 同十年 九月 御供 従五位下 初名 同 十一日 正月
右京亮 同年 御供 出羽守 被仰付 又 侍従
従五位下 拝領 御加増 一万石 御頂戴 慶長十九年
従四位下 初名 右京亮 元和 慶長十九年十月十六日

十一月九日はしめて御目見えありて御対面　東照宮に元和三年
の御遺跡を継せられ同六年若狭國へ移封せられ右
御命によりて備前の守になさる同八年十月御出府に付御
書并に　御鷹　寛永六年の秋　白雁献上同七年十一月
献物白米　為献物同九年六月為御遺物白銀三百枚
同十一年六月朔日に帝年始として　参府依大鷹拝領御
慶安元年七月御上洛供奉同四年六月十日御病
殺生禁断御備に付恐く披露同七年六月十七日
蒼海水溜溺死凡七百人料紙一万束被下同十九年七月八
日従四位下に叙せられ同氏孫寛永十年六月朔日

御目見従四位下侍従に叙任せられ同年十二月十六日
御遺物として御馬并に太刀拝領同九年五月御暇御
在國の時御書并に家臣三人御目見七月廿六日拝領一巻
若狭國封疆國主の仰により八代の　森林
慶安二年御代替に付帝参勤者年六月廿日始て
御目見御遺物拝領の御禮として　寛文五年九月四日御暇并に
二年御参府拝領の御備に付　寛文三年七月十日
十二月十日拝領　松平若狭守従四位下侍従
慶長十年御礼仰付　寛文五年十二月十八日
遺物として御馬并に太刀を拝領　二連　鷹

一平戸[illegible]二月廿日[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]延宝[illegible]八月[illegible]

[illegible]天和二年二月[illegible]

[illegible]貞享元年十二月[illegible]元禄九年

[illegible]七月[illegible]

八月[illegible]

[illegible]

[illegible]十二月廿一

一同年[illegible]十二月[illegible]

[illegible]享保[illegible]

[illegible]

[illegible]同年二月[illegible]

[illegible]十月[illegible]

[illegible]

[illegible]十二月[illegible]

[illegible]

[illegible]寛保元年七月[illegible]

[illegible]七百九十[illegible]

二年己巳月八日宇九兵衛元年以降当家 [illegible]
の者様子御尋被仰付候 [illegible] 宝暦 [illegible]
八月廿六日送届 [illegible] 九月 [illegible] 十月 [illegible]
て出帆延享三年九月十七日大風 [illegible] 被
壊 [illegible] 漂流 [illegible] 三年 [illegible] 船 [illegible]
寛延元年九月六日大風ニ而漂流十八人 [illegible] 被
於 [illegible] 宝暦 [illegible] 年秋朝鮮 [illegible]
朝鮮之漂流 [illegible] 朝鮮国民 [illegible]
同 [illegible] 送届 [illegible] 宝暦 [illegible]
三年十月 [illegible] 送届 [illegible]

[illegible] 壱人 [illegible] 十二月廿日 [illegible]
被仰付 同 [illegible] 三年秋朝鮮 [illegible]
漂流荷物朝鮮国民寛政元年 [illegible] 月 [illegible]
漂流之者 [illegible] 九月 [illegible]

植村

源泰朝

泰治　左京
依病蟄居
延宝五年四月廿四日卒
四十八歳

忠朝　帯刀
土佐守従五位下
万治元年閏十二月十七日叙任
元禄元年十一月十六日卒六十

某　左兵衛
依病籠居
享保六年十二月一日卒
五十八歳

某　長十郎
早世

正朝　大学
土佐守従五位下
宝永六年四月七日叙任
享保十四年十一月廿七日卒

某　右吉
早世

恒朝　小次郎・大学
長門守従五位下
享保十三年三月廿一日叙任
後改土佐守

七才
法名真覚院清岸源澄

六十才
法名真容院実誉道忠

忠元　式部
至孫千吉某家絶

女子四人
米津出羽守政武室
最上刑部義雄妻
井上讃岐守正晴室
一人早世

宝暦元年十月十一日配流
大和国高取
同年八月八日赦
同二年七月十二日死五十六才
法名真深院到誉覚岸

女子　早世

某　求馬
早世

某　敦貞
早世

尚朝　内藤徳次郎
寛延三年四月四日卒廿九才

某　傳三郎
早世

女子二人
最上右京義隆妻離別
嫁鳥居権之助忠意
小笠原主膳長恒妻離別

某　鉄次郎
元文四年十一月十一日卒

壽朝　仙三郎
実酒井左衛門尉忠寿二男
今植村五郎八恭邦家

金森

源頼業

頼旹　万助
初頼時
出雲守従五位下
天和二年十二月四日叙任
元文元年五月廿三日卒
六十八歿
法名儼龍院静翁観山

重詣　玄蕃
為家人

可寛　宮内
長門守従五位下
宝永四年十二月廿三日叙任
享保十三年二月二日卒
三十七歿
法名性覚院心玄義廓

可充　主税

頼錦　又太郎　兵部
初壹頼　壹遠
若狭守従五位下
享保十四年十二月廿八日叙任
後改兵部少輔
宝暦八年十二月廿二日配流
陸奥国盛岡
同十三年六月六日死卒
一歿
法名覚樹院芳山清監

可麗 昊允
早世

女子九人
共早世

某 七之助
酒井隠岐守重遠養子

某 攸之助
早世

女子二人
共早世

女子
許嫁金森左京可英離別

頼元 亥之助 出雲 敦負
初頼门
出雲守従五位下
延享三年十二月十六日叙任
宝暦八年十二月廿日改易
明和三年四月廿五日赦
安永元年十一月四日卒 五十才
法名弘寛院湛円宗源

某 駒之助
金森左京氏直養子

女子
早世

正辰　藏人
初頼真
井上遠江守正敦養子

女子
許嫁間部主膳正詮央離別
為金森左京可英養女

頼方　伊織
円頼元改易亦円赦

可端　千豊　六左エ門
初錦好　左内
金森大六左エ門慶卿養子

女子
許嫁森川紀伊守俊寿離別
為小出主水有春養女

良忠　圓成房
初熊蔵　錦豊
宝暦八年円頼元改易
同十二年四月赦芝神明
別当金剛院観空弟子

頼與　武九郎　敦質
初錦文
円頼元改易亦円赦

某　満吉
円頼元改易宝暦九年七月卒

喜連川　清和源氏　五千石

正二位征夷大将軍源尊氏二男
関東鎌倉公方従三位左兵衛督基氏九代
古河公方　従四位下右兵衛督
義氏
幼名梅千代王丸
左馬頭

母北条左京大夫氏綱女
室
天文十年生　於鎌倉
弘治元年十月家督叙任
左馬頭京都将軍
義輝之一字ヲ請ヲ義氏
弘治三年叙爵従四位下
任右兵衛督
天正十年十一月廿一日

於古河城卒四十五歳
法名香雲院長山喜公

国朝 無官 右兵衛督
幼名乙若丸
母佐野大炊助政經女
室義氏女名ハ氏女 初義氏卒無継嗣 嫡子梅千代王丸早世 氏女家之主となる
旧臣等立之 古河城居又鴻巣ニ移ル後 年月下ニ記ス 国朝豊臣関白之御声ニて
国朝義氏之家を継氏女ハ其妻となる 元和六申年九月六日於古河卒法名徳源院殿岳晃公○家譜氏女を
国朝之上ニ列す今改てここに記して
実小弓御所頼純 右兵衛佐義明之孫 嫡流 長男○元亀三年生 考ニ拠 ○天
正十八寅年九月遺言義氏の家を継氏女を妻とし 古河喜連川
西暦○文禄二巳年上洛肥前ニ赴 朝鮮陣 二月於目卒 安房

第二十二

頼氏 無官 右馬頭
幼名龍王丸
母佐野大炊助政綱女
室義氏女
実小弓御所頼純二男○天正四八辰年生 考ニ拠 ○文禄二巳年 寛永六三年
六月豊臣関白之御声にて家を継国朝之室氏女を妻とし○
慶長六丑年月日下野国芳賀郡之内ニ而根沢村並七井村ニ而
二百千石拝領 去年九月関原出陣之節依其功 御加増 ○寛永七午年六月廿二日
卒 喜連川 年五十

義親　無官　河内守
幼名　梅千代丸
母　義氏女
室　榊原式部大輔忠政養女
頼氏嫡子慶長己亥年生○寛永七午年七月二日於古河卒廿九才

尊信　無官　右兵衛督
幼名　龍千代丸
母　榊原式部大輔忠政養女
室
実義親嫡子元和二辰年生幼稚○寛永七午年為嫡孫兼祖遺領
相續○慶安元子年依病隠居○承應元辰年左京亮頼氏姉
[illegible]於江戸市谷平安寺葬建号月桂院花蓮川鈴木氏例堀谷郡大
椥村内百石寄附今の月桂寺○承應二巳年三月十七日卒三十
八才

十二代
昭氏　無官　右兵衛督
幼名　梅千代　右馬頭
母　家女
室
尊信嫡子寛永十九午年生幼稚○慶安元子年家督幼稚ニ付依
台命榊原式部大輔忠次後見ス○同年九月十五日初而御目見ス○寛文
十二子年[illegible]

訳家役中上意老中方連座ニ右役被仰付候以奥書致候
出○宝永元子年武州相州駿州御修復之節三司役令致 御付紙
先規諸役御免之節申上先規之通御免除致 候出○正徳二辰年
須申老中古書相添写 のち差出名前 東照宮之御書之外旧書
写差出○正徳三巳年十一月二日卒七十二歳

氏信 無官 右衛門督
幼名 藤千代
母 家女 同昭氏
尊信二男慶安元戊子年生○寛文八申年 依昭氏病気為名代初而
参府年頭御礼申上○九年為昭氏養子○寛文十戌年 又同
十四日卒廿一歳

氏春 無官 右兵衛督
幼名 虎王丸
室
母 織田上野介信政女
実ハ文京之信山義辰二男寛文十戌年生 幼指○同年十月廿三日為養
子○天和二戌年七月廿八日初而 御目見へ○正徳元卯年十二月十九日
遺領相続○正徳二辰年於日光 東照宮百回御忌日光道中宿
伝馬先規之通御免除願領内ニ差出○願先規年始御礼之節
代々大広間御中段二畳目而 御礼御太刀目録献上大老酒井雅楽頭
披露其後昭氏ニ病気之節舎弟氏信為名代寛文八申年之参府年始

御礼申上候処、先御名代之儀者 大広間御縁側中央ニ而御礼申上
御太刀目録八木参若書披露○于後右往又未年氏春家督後始
而 御目見之節先規之席ニ而 御目見之中上段台ニ取出於中絶
之年数ヲ経奉願候処 御出○宮城主殿頭先規様相對御吉事
前之通被仰付享保三戊年大和守ニ付取扱候ニ付在京
御門弟之ニ相残○享保六丑年九月廿九日卒 又於二條葬

十四代
茂氏　無官　右兵衛督
初名　梅千代
致仕後　禿心入道
母　家女
室

氏春嫡子 元禄十二年生 母雄○享保二酉年正月十五日初而 御目見
○享保六丑年家督 七月廿五日迄飯被仰○享保十一亥年茂氏ヘ
弓矢御内見之御沙汰有之茂氏巻藁前ニ而弓矢的弓矢
肩入弓箭之　氏茂印ノ社父
昭氏弓力上 矢目方八十匁 御尋ニ付書付差上
昭氏弓力壱寸三分　矢目方八十匁程
○享保十九寅年古書相写ニ而差上候 先年一所御徒之辰年差出候
宝暦七丑年十二月廿八日隠居改禿心斎○明
和六丑年又月又日卒 三條ニ葬

十五代
氏連　無官　右兵衛督
初名　氏王丸

母　家女

室

義氏嫡子元文四未年生　名桃　○宝暦五亥年十一月朔日初而　御目見

○宝暦七丑年十一月廿五日家督○宝暦十三巳年十二月十七日卒　廿五才

十六代
恵氏　無官　右兵衛督

幼名　金王丸　房之助

致仕後　大蔵大輔

母　家女

室

実加茂左近将監泰衡三男○宝暦十三巳年為養子○宝暦十三年十二月廿一日遺領相続○明和二酉年於日光　東照宮百五十回御忌御法會之節従領内御伝馬出役相願通御免除○明和五子年十二月朔日初而　御目見○安永五申年日光　御社参之節御伝馬出役願不出○寛政元酉年隠居改大蔵大輔

十七代
彭氏　無官　右兵衛督

幼名　亀若丸　右兵衛督

母　家女

室

恵氏嫡子明和八卯年生　名桃　○天明七未年十二月十六日初而　御目見

○寛政元酉年十一月十日家督

一

松前清和 無高 松前蝦夷一圓
源氏

若狭守源季廣嫡男
新羅三郎義光十八代信廣 松前始祖ヨリ五代

慶廣 従五位下 民部大輔 志摩守 伊豆守 法名海翁永泉
幼名 天屯丸 新三郎

母河野弥次郎右衛門越智季通女
室村上三河季儀女

天文十七卯年生○文禄二巳年正月二日於肥前名古屋改志摩守
○慶長元年御目見○慶長四亥年十一月七日於大坂御目見之時
改蝦夷号松前氏境地家及家譜等入上覧○慶長五子年三月年番
御服被下時被御羽織并御脇差被下○同年於境内地場ニ被築

城領（同十三年秋早穂 名云我号福山）○慶長八卯年参府十二月廿八日百人鉄炮頭下○慶
長九辰年正月廿七日田政、御甲冑御供馬御判之節○二月二日御旗
奉行兼之一揆時彼又頭下○二月廿一日 御鷹野御供奉勤○同月十日
御鷹御借用御判之節○十八日百人鉄炮頭下○又同年九日依家老藤家
上意○廿八日叙爵任伊豆守○六月廿三日於伏見之御前 御鷹野御供
奉○廿八日歳○慶長十四己酉年参府十一月十九日於江府百人鉄炮
頭下○慶長十五戌年二月八日於駿府 御目見○十五日山崎屋四辰
献上○二月廿六日於江府 台徳院様御目見之御茶湯之節別
座○同日歳暮時彼又兵粮書頭下○又月為出役依 命而
約出日献上○同年二月朔日花山院忠長卿松前下遣（同十五庚年又同廿八日御許為帆献語）
○九月三日男年八丙辰廣領牧野知行五百石○元和元卯年五月三日於大坂
御陣営御先列又月七日捕敵首一級○八月廿日於二条御城御太宗之退
衣二領拝領之○十二月為出役摂津虎後献上長者○元和二戊年十月
十二日卒六十九歳

六代
盛廣 始守廣 従五位下 若狭守 法名月浦宗円
幼名 孫房丸 又甚五郎
母村上三河季衡女
室家臣下岡直季女
慶廣嫡子天正二甲戌年生○慶長元申年参勤 御目見○慶長
丙年二月十八日歳 虎後之役参陣四節○慶長六丑年東参府
又月叙爵任若狭守○同年御上洛之供奉勤○慶長八卯年同断○
慶長十己年同断 台徳院様之供奉勤○慶長十二申年二月御書

卒年七歳

七代
公廣　従五位下　志摩守　法名大麟　宗恩　譜溪雲
初茂廣武廣又茂廣
幼名竹松丸　又甚五郎
母　家臣下国直季女
室大炊御門大納言資賢卿女
盛廣嫡子慶長二丁酉年生○慶長十八丑年十二月九日初テ　御目見○十五日初テ拝領　東照宮○慶長十八年叙爵○元和二辰年奉送銘
殿○元和六申年西蝦夷之砂金百両献上之后砂金上場内之金山并○元和八戌年五月御裁判之　御内書頂戴依御誓詞献上○寛
永二丑年秋田雄勝郡之○寛永七午年十二月献上純白之貢鷹○寛永九申年二月為御遺物頂戴之○寛永十三子年十二月献上之貢鷹依大猷院様御意御饌詞○七月御上洛之供奉○寛永十四丑年二月廿八日福山居館出火焼失○寛永十七辰年十二月廿一日蒼海水漲溺死者凡七百余人破損一百余艘○寛永十八巳年七月八日卒

八代
氏廣　辨之助　法名直心　宗蛙
母大炊御門大納言資賢卿女
室家臣蠣崎主殿友廣女

公廣嫡子元和八戌年生○寛永七午年二月始而　御目見
○寛永十八巳年十一月廿日遺領相続家臣一人　御目見○寛永十九
午年春初而帰城○寛永廿未年春西部撒更致遣家臣請之
○七月廿九日家譜一冊差上○正保元申年封疆地図差上○正
保巳年東八日ニ而養廣綱廣条十俵○承安之子年八月廿八日於江
府卒年二十七歳

九代
高廣　志摩守　法名漢臣川水
幼名　千勝
母家臣蠣崎主殿友廣女
実家臣蠣崎右衛門利廣女

氏廣嫡子寛永二十未年生○慶安二丑年六月廿九日初而　御目見
遺領相続家臣二人　御目見○九月帰城○承応二巳年春
東部蝦夷致蜂起家臣請之○寛文又巳年七月廿五日卒年二十三歳

十代
矩廣　従五位下　志摩守　法名機三曹元
始吉廣　初名竹松丸　又兵庫
母家臣蠣崎右衛門利廣女
室
高廣嫡子万治二亥年生○寛文五巳年十一月廿二日初而　御目見之
遺領相続家臣二人　御目見付時寛文鷹二連鷲尾二十尻献
上帰後之致日以帯之家献之○寛文六午年二月廿五日初而御暇○秋

飢饉及貧窮之民○寛文九己酉年夏東部蝦夷叛矩廣依若
年松前八左衛門泰廣奉　台命松前ニ赴キ共討夷賊平之○延
宝二甲寅年正月廿五日於江府八月廿八日出帆自此年二十年迄具止○
天和二壬戌年三月朔日自先年御傳馬之事判ニ被成下○貞享元
子年二月廿五日叙爵任志摩守○元禄九丙子年五月十三日朝鮮国
人西蝦夷ト漂着七月松前ニ来ル女人及男丈六人八月御勘定方傳馬九月送江府
下谷宗次郎御物御郎○元禄十五壬午年飢饉浪秋冬迄為粥施餓
老若凡及二万人○享保四己亥年正月十五日御系図書上之上覆石
上之格別絶対○享保五庚子年十二月廿一日卒六十二歳

富廣　橘太郎

母　家女

矩廣嫡子元禄十五年生○正徳五乙未年十二月朔日初

御目見○享保五庚子年正月廿二日於江府卒二十歳

法名傑巌常英

十二代
邦廣　従五位下　志摩守

初廣国　初名傳吉

母　杉原四郎兵衛忠長女

室

寛三郎本廣六男宝永二乙酉年松前ニ生○享保元申年
為養子○二月十五日初而　御目見之（依先例父子同興）○享保六辛丑年七月十
二日遂領知之継目○廿八日右御礼家臣二人　御目見之○十月十五日

叙爵任志摩守○同日初而御暇○元文戊午年十一月依病身
本祿万石之上〻嫡子江上〻子出嫡子資廣江万石以上之
嫡子江ハ内々可被出候旨 續出記○寛保元酉年七月十九日
河海水溢溺死之者千四百三十五艘○寛保三亥年四月八日
卒三十九才

十二代
資廣 従五位下 若狭守 法名 瑞嶽英麟
初里廣 完廣 幼名栄吉

母 家女

室 八条前中納言隆英卿女

邦廣嫡子 享保十一年生○元文戊午年十一月十八日初而
御目見 廿一日叙爵任若狭守○寛保三亥年八月十六日違例
御暇○九月朔日家臣二人御目見○十月朔日初而御暇○延
享二丑年八月廿九日大風暴雨海溢死者五十人民家破壊者又十
戸漂流船二十又戸破船之百三十艘小船不数多○寛延元辰
年九月三日大風而溺死十人破家九十二戸破船三百四十六艘
○宝暦又亥年秋飢饉翌年不止出倉中之米穀山海之産
物賑国民○明和三丙年二月十九日卒年四拾歳

十三代
道廣 従五位下 志摩守
始章廣 幸廣 幼名源助 又外記
母 八条前中納言隆英卿女
室

資貞嫡子宝暦己卯年生○明和二酉年十月九日奉存十二日迄
領末證○十九日初謁 御目見家臣二人 御目見○十二月十八日叙
爵任志摩守○同日襲封○天明三卯年秋飢饉施倉
粟及河内賑恤救国民○寛政元酉年九月東都久奈支
利妙東灘校其家臣所静謐○九月依右静謐賜御奉
書云

昌平坂

日本政府図書

国立公文書館
National Archives of Japan